

乗雲

寺報

第111号

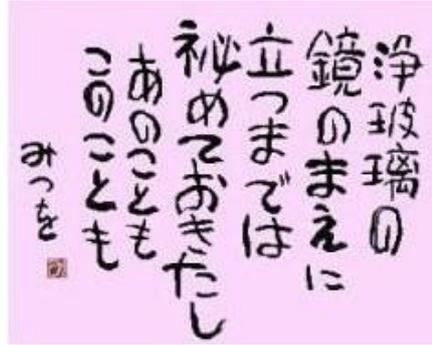
1985年4月創刊

R2.11.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp



仏教詩人である相田みつをさんの「浄玻璃(じょうはり)の鏡」という詩です。

浄玻璃(じょうはり)の鏡とは、地獄の閻魔庁にあって、死者が生前行ってきた善悪の所業を、全部ありのまま映し出すという鏡のこと。だれでも人には言えないうしろめたいものが一つや二つあるものです。死出の旅の途中で浄玻璃の鏡の前に立たされる。どんな自分と出会うのだろう。何とも恐ろしい鏡です。

朝起きたら鏡の前で歯磨き、洗顔、体重計に載る、これが私の生活の始まりです。そして、三々四日に一度剃髪します。鏡で頭の具合(剃り残しを確認)を見ながら、一人で剃り上げます。五分ほどで綺麗なスキンヘッドに変身です。ともかく鏡は便利なもので、日常生活でなくてはならないものです。私たちは一日何回鏡の前に立つでしょうか。「鏡を見る」と言いますが、正確には「鏡の中の自分を見ている」ことになりま

す。今日はどんな顔になっているか。しっかりと人の前に出られる顔をしているか。いつも気になるところです。

「浄玻璃の鏡」の前に立つたら自分が生前に積んできた善き行いも悪い行いも全てが映し出されるという。「そんな悪いことはしていません」「記憶にありません」なんて言えるはずがない。日頃から正しい日常生活を心がけ

ていないと閻魔庁で大変な目に遭うこととなります。

毎朝仏様の前で勤行いたします。お釈迦様、道元様、瑩山様、諸仏諸菩薩様に、「この世の全ての人々が平穩無事に暮らしていかますように」「ご先祖様、仏様の国で安らかにお過ごしください」と願いを込めて読経します。

毎日お参りをする仏様も大きな鏡のようなものです。仏様の前で手を合わす。毎日の無事を祈る。そのお姿は自分を映し出す鏡であります。鏡の中の自分を見るように、仏様を拝む。仏様をお手本として、仏様という鏡で自分の生き方を、自分の心を正しくしていく。これがお参りする意味ではないでしょうか。

この頃、鏡に映る自分の顔を見てみると父親に良く似てきたなと思うようになりました。師匠がもつとしっかりしろと励ましてくれているように思えてなりません。鏡の中の仏様、師匠、自分の顔、毎日鏡を見ながら今日も一日精一杯努めてまいりますのでよろしくお願ひしますと声をかけています。

令和三年 年回忌表

〔回忌〕	〔没年〕
一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年 令和元年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十四年 平成元年
五十回忌	昭和四十七年
百回忌	大正十一年

▼令和三年(2021)来年度の年回忌表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には十一月中旬に通知しますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。